

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-366
研究課題名	MRSA 菌血症症例における MRSA の病原性解析
研究期間	西暦 2012 年 11 月（倫理委員会承認後）～2013 年 12 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 菌株:MRSA および患者臨床情報 ）
上記材料の採取期間	西暦 2009 年 3 月～2011 年 12 月
意義、目的	<p>ブドウ球菌は皮膚軟部組織感染症、菌血症を引き起こし、1980 年以降病院内でメチシリン耐性ブドウ球菌(院内型 MRSA)が蔓延するようになり、特に菌血症症例において死亡率が高い。加えて米国を中心に市中型 MRSA(USA300)が蔓延するようになり、劇症型の皮膚軟部感染症を引き起こし、病院内においても徐々に市中型 MRSA が広がっていることが問題となっている。市中型 MRSA は PVL 遺伝子を保有し、ロイコシジンを産生することで病原性が高いことが知られている。</p> <p>近年、東京大学薬学部の関水・垣内らが MRSA のロイコシジン産生を含む菌体外毒素を制御する遺伝子(PSM-mec)を発見し、従来の院内型 MRSA は本遺伝子を保有することで病原性を抑制していることが判明した。</p> <p>そこで今回我々は、東京大学薬学部と共同で MRSA 菌血症症例から分離された MRSA における PSM-mec 遺伝子の保有の有無と臨床学的背景およびアウトカムについて検討を加える。</p>
方法	<p>2009 年 3 月～2011 年 12 月まで東北大学病院において MRSA が血液培養から検出された患者と菌株を対象とする。東京大学薬学部において MRSA の PSM-mec 遺伝子の保有およびバイオフィルム産生能について検討を行う。東北大学において MRSA の SCC-mec の typing、PVL 遺伝子の保有、薬剤感受性試験および臨床学的解析を行う。</p> <p>臨床学的解析において以下の項目を検討する。</p> <p>①年齢、②性別、③基礎疾患、④入院日、⑤血液培養陽性日、⑥手術の有無、⑦血液培養陽性日における患者バイタル、⑧血液検査データ、⑨使用薬剤、⑩転帰</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学大学院医学系研究科 感染制御・検査診断学分野 東北大学病院 検査部 青柳 哲史(TEL:022-717-7373)